【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成22年12月24日(2010.12.24)

【公開番号】特開2009-197661(P2009-197661A)
【公開日】平成21年9月3日(2009.9.3)
【年通号数】公開・登録公報2009-035
【出願番号】特願2008-39402(P2008-39402)
【国際特許分類】
Ｆ０２Ｂ　77/13　(2006.01)
Ｂ６２Ｊ　13/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０２Ｂ　77/13　Ａ
Ｂ６２Ｊ　13/00　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成22年11月5日(2010.11.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
放射音が発生する騒音源装置（Ｐ）を、前記騒音源装置（Ｐ）の外側で前記騒音源装置（Ｐ）を所定方向から覆うことにより放射音を低減するカバー部材（Ｃ１）と、前記放射音の特定周波数で共鳴するレゾネータ（120）とを備える遮音構造体において、
前記カバー部材（Ｃ１）の内面に放射音を低減する吸音材（115）が取り付けられ、前記レゾネータ（120）は、前記騒音源装置（Ｐ）と前記カバー部材（Ｃ１）との間に形成される空間（Ｓ）に前記吸音材（115）と接触または空間を空けて前記カバー部材（Ｃ１）と非接触状態で配置されると共に、前記騒音源装置（Ｐ）に接触状態で取り付けられることを特徴とする遮音構造体。
【請求項２】
前記カバー部材（Ｃ１）は、前記所定方向から前記騒音源装置（Ｐ）を覆う覆い部（Ｃａ）と、前記所定方向とは反対方向に前記騒音源装置（Ｐ）に近接するように屈曲した外周部（Ｃｂ）とを有し、
前記外周部（Ｃｂ）は、前記所定方向に直交する直交方向から前記騒音源装置（Ｐ）を覆い、
前記空間（Ｓ）には、前記カバー部材（Ｃ１）の内面（Ｃｉ）に沿って、かつ前記カバー部材（Ｃ１）と前記レゾネータ（120）との間に吸音材（115）が配置されることを特徴とする請求項１記載の遮音構造体。
【請求項３】
前記レゾネータ（120）は、特定周波数の前記放射音の加振源（60）の近傍に取り付けられ、
前記レゾネータ（120）の首部（126）の開口部（127）は、前記空間（Ｓ）内において、前記カバー部材（Ｃ１）に沿う方向で、かつ、前記開口部（127）の位置に対して、前記空間（Ｓ）の、より内方に向かう方向（Ａ１）に開口していることを特徴とする請求項１または２記載の遮音構造体。
【請求項４】
前記騒音源装置（Ｐ）は、自動二輪車（Ｖ）において乗員用のシート（９）よりも下方

に配置される動力装置（Ｐ）であり、
前記開口部（127）は、前記シート（９）よりも前方に位置し、
前記開口部（127）が開口している前記方向（Ａ１）は上方であることを特徴とする請求項３記載の遮音構造体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
請求項１記載の発明は、放射音が発生する騒音源装置（Ｐ）を、前記騒音源装置（Ｐ）の外側で前記騒音源装置（Ｐ）を所定方向から覆うことにより放射音を低減するカバー部材（Ｃ１）と、前記放射音の特定周波数で共鳴するレゾネータ（120）とを備える遮音構造体において、前記カバー部材（Ｃ１）の内面に放射音を低減する吸音材（115）が取り付けられ、前記レゾネータ（120）は、前記騒音源装置（Ｐ）と前記カバー部材（Ｃ１）との間に形成される空間（Ｓ）に前記吸音材（115）と接触または空間を空けて前記カバー部材（Ｃ１）と非接触状態で配置されると共に、前記騒音源装置（Ｐ）に接触状態で取り付けられることを特徴とする遮音構造体である。
請求項２記載の発明は、請求項１記載の遮音構造体において、前記カバー部材（Ｃ１）は、前記所定方向から前記騒音源装置（Ｐ）を覆う覆い部（Ｃａ）と、前記所定方向とは反対方向に前記騒音源装置（Ｐ）に近接するように屈曲した外周部（Ｃｂ）とを有し、前記外周部（Ｃｂ）は、前記所定方向に直交する直交方向から前記騒音源装置（Ｐ）を覆い、前記空間（Ｓ）には、前記カバー部材（Ｃ１）の内面（Ｃｉ）に沿って、かつ前記カバー部材（Ｃ１）と前記レゾネータ（120）との間に吸音材（115）が配置されるものである。
請求項３記載の発明は、請求項１または２記載の遮音構造体において、前記レゾネータ（120）は、特定周波数の前記放射音の加振源（60）の近傍に取り付けられ、前記レゾネータ（120）の首部（126）の開口部（127）は、前記空間（Ｓ）内において、前記カバー部材（Ｃ１）に沿う方向で、かつ、前記開口部（127）の位置に対して、前記空間（Ｓ）の、より内方に向かう方向（Ａ１）に開口しているものである。
請求項４記載の発明は、請求項３記載の遮音構造体において、前記騒音源装置（Ｐ）は、自動二輪車（Ｖ）において乗員用のシート（９）よりも下方に配置される動力装置（Ｐ）であり、前記開口部（127）は、前記シート（９）よりも前方に位置し、前記開口部（127）が開口している前記方向（Ａ１）は上方であるものである。